



## 県下医療系大学紹介

### 崇城大学 薬学部

薬学部長 國枝 武久

本学は、「体・徳・知」のバランスの優れた人材の育成を建学の精神として昭和四十二年に開設された熊本工業大学を母体としており、平成十二年に芸術学部が併設されたこと

に伴い、大学名が「崇城（そうじょう）大学」に変更されました。平成十七年四月に薬学部が新設され、現在、工学部、情報学部、生物生命学部、芸術学部それに薬学部の五学部十一学科を擁する総合大学となっております。JR崇城大学前駅向かいの小高い丘の上に広がるメインキャンパス北側ののどかな田園風景を望む地区に薬学部棟が建設されています。未病薬学教育・研究の拠点の一つとして隣接されている温室を含めた薬草・薬木園施設は憩いの場ともなっています。

医療構造の多様化・高度化変革が進むに伴い、一層大きな使命と役割を担う薬剤師が求められており、崇城大学薬学部では、医療の場で幅広い活躍が出来る人間性豊かな薬剤師

の育成を第一の理念として掲げて、精力的に薬剤師教育を展開しています。学生定員一二〇名の四年制薬学部として発足しましたが、学校教育法の改正に伴い平成十八年度からは六年制課程に替え、臨床に係る実践的能力の高い薬剤師の養成を目指しています。

薬剤師がチーム医療の一員として確固たる役割を担う気概と能力を持つことに、六年制薬学教育の狙いがあるとの考えの基に、医療現場に精通した教員スタッフ陣を中心として、患者主体の密度の濃い実践的な薬学教育の実現に向け全力を傾注しているところです。

「地域に広がる薬学拡大キャンパス」構想のもと、熊本県域の医療機関のご協力を得て、講義室で知識を学ぶだけではなく、体験学習や実務実習を通して、体で感じ・考える薬学部学生を育てるべく取り組んでいます。

医療薬学重視の姿勢は、学内の実務実習施設の充実ぶりにも現れており、クリーンベンチや安全キャビネットを備えた本格的な無菌調剤室、

模擬病室や調剤用の各種機器を完備した模擬病院薬局実習室と、保険請求業務に必要な錠剤、散剤分包機などオンラインで結んだレセコンシステムや服薬指導室を備えた模擬保険薬局実習室が、学部内に設置されています。さらに、テレビカメラで実習状況を講義室等へ中継するシステムも備えており、これらの模擬薬局を活用することで、薬剤師業務の基本的な事項の多くは学内で学ぶことが出来ます。

また、薬学研究の推進についても、本学の伝統的な研究重視の姿勢に支えられ、最新鋭の大型研究機器類を装備した機器分析室、動物飼育室を含む生物科学研究棟やRI施設等の研究環境が整えられています。平成二十二年度には、次世代型DDS製剤の開発評価研究拠点として薬物送達システム（DDS）研究所が付置され、近く開設予定の大学院（博士課程）における重要な研究拠点としても期待しています。

このように、崇城大学薬学部では、時代を見据えた確かな方向性のもと、学生の目線に立った薬学教育の実践

に真摯に取り組みながら、社会や時代の要請に即した特徴のある学部を目指しております。



崇城大学 薬学部